

編集室から

桜の開花頃は、例年にない暖かさ。満開を迎える頃から、一転して冬に逆戻りしたかのような寒さと、記録的な高温との間の不安定な天候が続いています。ソメイヨシノよりも開花が遅い山桜が、結果的に長く目を楽しませてくれたことが、唯一良かった点かもしれません。

春はまた、別れと出会いの季節とも言い古されています。

小紙も例外ではなく、レギュラー陣の川畠さんが、今月号を以てご卒業されます。バックナンバーをめぐってみると、川畠さん最初のご寄稿は、2010年1月号でした。この年は、奇数月隔月をお願いしましたが、翌年1月号から無理を申し上げて毎月ご担当して頂き、以来、今月号まで7年5ヶ月という長きにわたり、稿を寄せていただいて参りました。通算95回に及んでいます。

川畠さんのふるさとである能登半島の産品を使って経済振興・地域づくりの一端を担うべく、東京で業態の異なる複数の飲食店を営まれつつ、コンサルタントもお務めになられると、ご多忙を極められる中でのご執筆に、心より、深く御礼を申し上げたいと存じます。

今後は、能登で家業を継ぎつつ、東京との多拠点居住のライフスタイルを採られると伺っています。個人事業はもとより、会社勤めであっても、自分の人生の経営者である以上、最終資本は身体しかありません。このかけがえのない究極の資本を大切に、ご自愛されつつ一層のご活躍を、と想います。

次号から同欄は、地域再生のお手伝いを、のべ4年ほどさせて頂いた和歌山県有田川町から新進気鋭の地域おこし協力隊委員の方に、ご執筆をお願いしています。新しくご担当頂く方、ならびに小紙を、引き続きよろしくお願いいたします。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2023/05
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

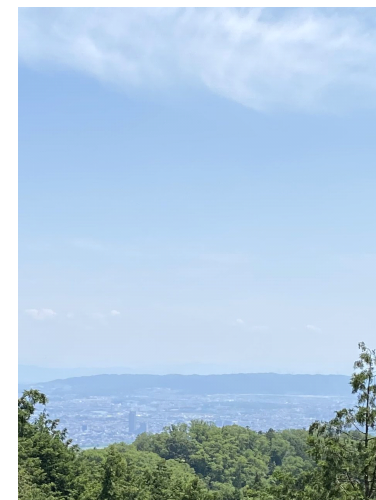
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2023/05
(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

泉 月



大阪府島本町にて
生駒山系と大阪平野を望む
by hama

寄稿『COVID19おそろく最終回?』

サンポート高松クリニック 井垣 俊郎

まだ感染は燃り続けていますが、想定を超えるほどではありません。もはや、新たに発信すべきことは思い浮かびません。COVID19に関する話題は、ひとまず今回限りにしようと思っ

◎

先月分の原稿を送った直後に、厚生労働省からワクチン接種によらない抗COVID19抗体を有する人の割合が四十%を超えたという発表がありました。今回のワクチンにより体内で作られるのは、スパイク蛋白というCOVID19のごく一部分だけに対する抗体です。それ以外の部分に対する抗体があれば、実際にCOVID19に感染したことの証拠になります。献血で得られた血液が調査対象なので健康意識の高い集団である可能性は否定できませんが、世の中のおおまかな傾向を見ることは出来そうです。

◎

国民の八割以上がワクチン接種をしたにもかかわらず、その半数が実際に感染もしていただけです。年代の若い人ほど感染率が高いのは、それだけ無防備に感染の機会にさらされた結果と考えられます。この感染率は、これから緩やかにですが高まっていくこと

年代が上がるほど保有率低い傾向

年代別 コロナ感染による抗体保有率 [*]	
2023年2月	
16歳～19歳	62.2%
20代	51.6%
30代	52.2%
40代	46.0%
50代	36.7%
60代	28.3%

30代以下
2人に1人以上

年代上がるほど
低い傾向

年代別では16歳から19歳が62.2%、20代が51.6%、30代が52.2%と30代以下では2人に1人以上となりましたが、40代は46.0%、50代は36.7%、60代は28.3%と年代が上がるほど低い傾向が見られました。

でしょう。事実、欧米では八割越えの国も珍しくないようです。ただこれは、ワクチン接種が無意味だったという事ではありません。ワクチンのおかげで、大ごとにならずに済んだと見るべきです。ワクチンで重症化を抑え込みながら時間稼ぎをして感染力は強いけれど毒性の低いウィルスが主流派になるのを待つ、という作戦が有効だったわけですね。

◎

突然変異により出現する新たなウィルス感染症は、これからも人類にとって脅威であり続けるでしょう。しかし今回のコロナ禍のおかげで、我々はメッセンジャーRNAワクチンという新しい強力な武器を手に入れることができました。このワクチンは抗体産生の効率がよく、コストも許容限度内で、遺伝子配列さえ判れば短時間で作れて修正や改変も容易であり、副反応の経験も積むことができました。残された課題は、今回得られた知見をしっかりと検証して対策を練り（例えば変異株出現のリスクを効率的に抑えるためには世界規模で一斉にワクチン接種を行うべきでしょうし、必要な接種回数も割り出せるはずです）次なるパンデミックに備える事だと考えます。

福岡県 59.4% 岩手県 27.4% 地域差も

地域別 コロナ感染による抗体保有率 [*]	
2023年2月	
福岡県	59.4%
岩手県	27.4%
沖縄県	58.0%
福島県	31.7%
東京都	42.2%
全国	42.3%
大阪府	50.2%
愛知県	51.8%

地域別では、福岡県が59.4%、沖縄県が58.0%などと高かった一方、岩手県は27.4%、福島県は31.7%など地域によって差が見られています。また、東京都は42.2%、大阪府は50.2%、愛知県は51.8%でした。



【プロフィール】

（いがき としお）金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

濱の起業塾 四十九『商品開発⑧』

前号で、テストマーケティングによって、コアな対象となる層のウォンツ（潜在的な欲求）を探る重要性に触れた。その際、テストマーケティングの場としてイベントを考慮に入れることも記させていた。

駆け出しのころ、後に我が師匠となる方を始め、地元まちづくりのリーダーの方々と一緒になって、港町七尾の再生プロジェクトに携わっていた。誰も訪れることがなくなっていた旅客船埠頭に、米国西海岸で流行しているフィッシャーマンズワーフ（漁師の波止場・後の能登食祭市場）という施設を建設し、集客を図ることで地域経済の活性化を目指す構想だった。早くから、西海岸へ視察団を定期的に出すなど、して構想実現後の現場感を体感していたが、構想実現の精度が上がるにつれ、二つの問題が浮上してきた。

一つは、視察に行っていない市民への啓発である。写真や発表でいくら説明しても、現場の空気を伝えきれず、懐疑派への説得力に欠けていた。当時

は未だ、道の駅も制度化されていない。例示すべきものが見当たらない時代だった。もう一つは、本欄今月のテーマにも関わるが、どんな業態・品揃えが評価されるのか、全くノウハウが無かったことである。

議論の末、施設的设计に着手される前の段階から、GWの期間中、現場周辺の臨港地を会場に「能登国際テント村」なるイベントを企画・実施した。それまで検討されてきた様々な飲食・物販の形態を、仮にでもイベントで実験し、直接評価を得ようというものだった。

能登食祭市場の開業年まで、数年開催し続け、結果は大盛況。中でも鮮魚の販売と、浜焼きと称したシーフードBBQが、特にウケた。これらをテストマーケティングの成果とし、後者は施設運営企業の直営とできた上に、将来の客層となる市民だけでなく、地元の流通業者にも実感を得ていただいてテナント募集の追い風にもなっていた。

テストマーケティングとしてもイベント活用で、商品の開発だけでなく、業態開発への重要なヒント・評価を得ることができた一例ではないだろうか。

4月1日付けで、福井大学国際地域学部講師を任じられました。これまでの御厚意に心から謝意を表しますとともに、今後ともご指導のほど、どうかよろしくお願いいたします。

前職雇止めの後、ちょうど2年半のフリーランス生活でした。パラレルワークの傍ら、転職活動もまたパラレルに進んでおりました。陰日向にご心配や応援をいただき、ありがとうございました。

この間、個別の貴重なお仕事のほか、大学・高校の非常勤講師、観光地域づくり法人等の役員のお話をいただき、刺激と変化に富む有意義な日々を過ごさせていただきました。改めて深く御礼申し上げます。また前号で書かせていただきましたが、個人事業主として、失業給付や青色申告を通じた社会保障制度及び税制への理解が深まるという副産物も生まれました。

このたび再び大学常勤の職を得たこと、すべてのご縁の賜物と多方面に感謝いたします。地域での実践教育に力点を置き、一生懸命働いていきたいと存じます。

科目としては学部の地域経済論と観光学、大学院のまちづくり・観光マネジメント論を主に担当し、PBL（Project-Based-Learning）にも関わっていく予定です。これまで以上に、地域社会や地域産業が持続的によりよい状態になることを見据え、教育や研究を進めていく所存です。なかでもPBLにつきましては、行政、企業、各種団体、市民などのお力を借りつつ、協働・共創を是非ともお願いしたいと思います。

今後も一層のご支援と伴走、及びお誘いや道案内のほど、どうかよろしくお願いいたします。

なお、DMOさかい観光局 専務理事及び坂井高等学校 産業実務家教員は、非常勤を継続させていただきます。大学へは兼業を願い出ており、昨今の流れからもそれが歓迎される雰囲気を感じております。仕事に一本の柱ができましたが、それだけに集中するわけではなく、他にも重要なことに関わらせていただくスタイルを選びました。PBL(Parallel-Boosted-Learning)を目指そうかな。

ということでパラレルワーカーは当面続き、本シリーズもまた続行させていただきます。

その2 父

能登生まれ能登育ち。そしてずっと能登で商売をし僕らを養ってくれました。

義父同様76歳の私の父は朝3時に配達される朝刊を玄関前で待つような上級者の早起きです。以前もここで認知症になった話をさせていただきましたが、早起きは僕が子どもの頃からそうだったので、認知症から起因したものではないという事は確かです。

エピソードとしては

○嫁(私の母)が妹の出産でいない事をいいことに、酒を飲んで運転をし日本海に車ごと突っ込んだものの無事陸に上がることができたが、祖父が怖く5日間逃げ回り、自分の葬式の準備の最中に警察に保護されて帰宅。20代半ば。

○あばれ祭りでヤクザと大立ち回りをし、翌朝交差点で血まみれで大の字にのされていたのを高校生だった僕が発見。40代前半

○業界団体の会合で大酒を飲み、あの加賀屋の生け簀に飛び込んで鰯を絞め殺すという暴挙を可笑し、損害賠償は100万円超。50代前半
等々、酒が絡んだ情けない武勇伝には事欠かない父ではありますが、

①50年以上誰よりも早く会社に出て掃除を欠かさない。前の日にどんなに呑んだとしても。

②ええカッコしいもあるのか(9割はそれ)、呑みに行ったら知らない人にも奢って帰ってくる。

③短気なんだけど、すごくマメな性格で、農業が趣味。

④医者に禁煙を約束させられ、母に吸っているところを見つかり、その場で持っているタバコを握りつぶされ、持っている小銭も取り上げられているにも関わらずなぜか1時間後にはポケットからタバコが出てくるというトリッキーなファンタジスタ

⑤76歳での免許更新における認知機能検査で、毎朝1時間必ず過去問を解くも、毎回西暦なのか和暦でなのかにこだわる

⑥何回もした話を、さも初めて聞いたかのように毎回驚いたり喜んだりする

⑦本家の長男という気質なのか、なんでも気軽に引き受け、そして仕切りたがるが、粗く漏れが多いタイプなので、サポートに入る周りが成長していく

ほぼ半分はディスリに近い内容になりましたが、この先達に共通して言えるのが人に敬われるような言動はないかもしれないけど、友達はいみたい。身を投じて世のために尽くそうという気概はないが、仕事は好きみたい。人望も特になく誰も相談はしてこないけど、なぜか呑みにだけはいつも誘われている。つまり、『憎めないかわいい奴』という共通事項があります。

結論『かわいい奴』というのがこの令和の時代における“徳”のあり方のひとつ!!! 最後は問答無用の力技で言い切っちゃって終わります。

『相模の国から ～大魔神のたび～』 森村橋復原物語 4

茨城県境町 神奈川県松田町 福岡県築上町 トリプル参与 溝口 久

この図面群の発見により復原設計の精度は上がった。橋の歴史も明らかになってきた。今一度、最初から森村橋の歴史を紐解こう。明治39年6月5日に静岡県知事宛てに富士紡績(株)取締役会長濱口吉右衛門の名で森村橋架橋の工事許可願いが出されている。「当会社小山工場通用のため架設したる木橋は腐朽したので鉄橋に架け替えたい。許可日より10日以内に着手し6カ月間で竣工する。」として設計書と図面を添えて願い出ている。橋の開橋式が明治39年11月2日であったので、工期は5ヶ月程であった。もっとも橋の部材は今でいう工場で加工製作されているので、5カ月間は鮎沢川の現場で足場を架けて組立てるにかかった期間となる。豊門会館150坪の邸宅を東京から小山町に移築するにも11ヶ月程。いずれにせよ建設重機が無い時代にあって驚異のスピードである。設計は秋元繁松(京都帝大土木明治36年卒)、氏の設計書を読み解き強度を確認すると1.3 ～4.5倍ほど余裕がある設計がされていたことが明らかになった。橋構造はピン接合のトラスのフレームをつくり、そのフレームに橋の床を受ける鉄梁を吊る形になっていて、フレームに直接床が乗ってはいない。鉄の梁の上に木の縦桁が走りそこに木の床が貼られていた。雨ざらしの木の床が長持ちする訳はなく完成後6年目の明治45年に檜材にやり替えている。さらに耐久性向上のために翌年大正2年アスファルト材を敷設している。

小山町には富士紡が架けたもう一つ、鮎沢橋がある。これには屋根が架けられていて今でも木の床である。思いのほか傷みのひどい森村橋に懲りて屋根を架けたものとみられる。この橋も大いに価値があるのだが、富士紡の敷地の中にあるため近寄ることも渡ることも思うに任せない。その富士紡の土地も他の会社ものとなり、橋はもう使われていない。そう遠くない時期に無くなることになるだろう。すでに壁は取り外された。

平成29年6月に設計がまとまるといよいよ工事発注だ。ふるさと納税は目標金額に達していたし、静岡県からの観光施設整備補助金1億円も得る見込みが立った。年度当初の確保していた予算は2億円、同規模の新設の橋の工事価格で確保していたが、積算価格は4億円にまでになっていた。まずは2億円内に抑えた工事発注をしなければならない。この復原工事を入札するにしてもその特殊性から橋梁メーカーを対象にしても手があがるかどうか。建設業界は、当初手掛けた業者がその後の工事でも高い確率で請け負うというのが習わしだから他業者は手を上げてきにくい。しかし、単

独随契は特に工事の場合は無いからプロポーザルを行うことにした。ここで求める技術提案は第1にコストコントロールだ。施工範囲を圧縮したが2億円には及ばない。質を落とさないで予算内でできる提案を求めたのだ。同年9月にプロポーザルの公募に入った。参加表明は案の定(株)HIインフラシステムズのみだった。ところが、技術提案書の提出期限前に出された書類は辞退届だった。やはり金額が追いつかない。10月中旬にプロポーザルを中止することになり、仕切り直すことにした。目標提案価格を3.7億円に上げ11月にプロポーザルを仕切り直した。橋詰広場工事はその後に発注することにした。ようやく同社もその金額でならんと応じてくれた。

復原工事は、材料がそのまま使えるのか、新たなものに代えなくてはならないかは橋をばらしたうえで、金属の腐食等詳細な検査をした上で判断していく。また、鮎沢川上の工事になるため河川管理者である県との協議がある。これにより更に工事費が嵩んだ。復原は橋をばらして腐食が激しく使いものにならない箇所を除き同社の工場のある堺まで運び、そこで不足箇所は新規材料を溶接し加え当時の形に仮組する工程をとっている。橋を外すのに一気に全体を持ち上げるほどの大きなクレーンを現地に据えることができないため、半分ずつ持ち上げることにした。そのためには橋を支える柱を河川に立てることが必要になる。コンクリート基礎を河床につくり、そこに支柱を据えたい、それは外すときと改修後の橋を据え付ける時に必要になる。だから工事期間中は河川内にあり続ける。現に昭和40年代に橋を修繕した時に設けた基礎の跡がある。当時とは異なり県からは渇水期のみしか許可できないと言う。これは譲ってもらえそうにない。ならば支柱を建てることなく森村橋を挟むように仮の橋を設け、そこにボルトで緊結し、徐々に部材を切って外す工法を同社の技術陣は考え出した。多少工費は嵩むが他の選択はない。この判断は大正解だった。令和元年10月12日の台風19号では残されていた仮橋周囲に設けた足場そばまで鮎沢川の水位は上昇した。支柱の基礎は流された被害を生んだ危険はあった。この工法は業界誌にも紹介された。

(つづく)

